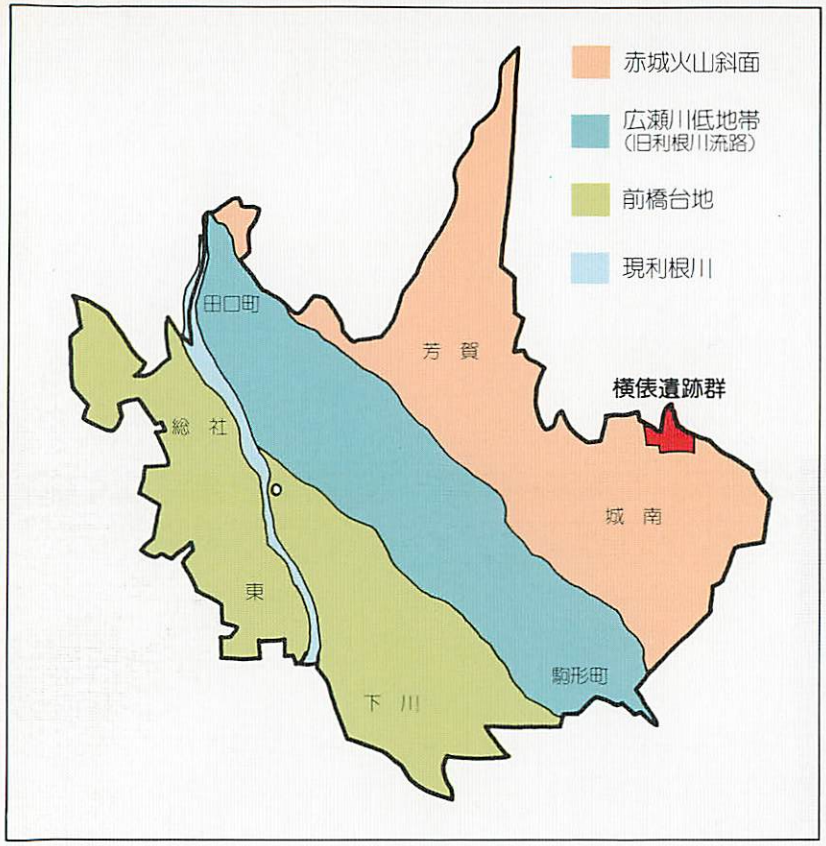
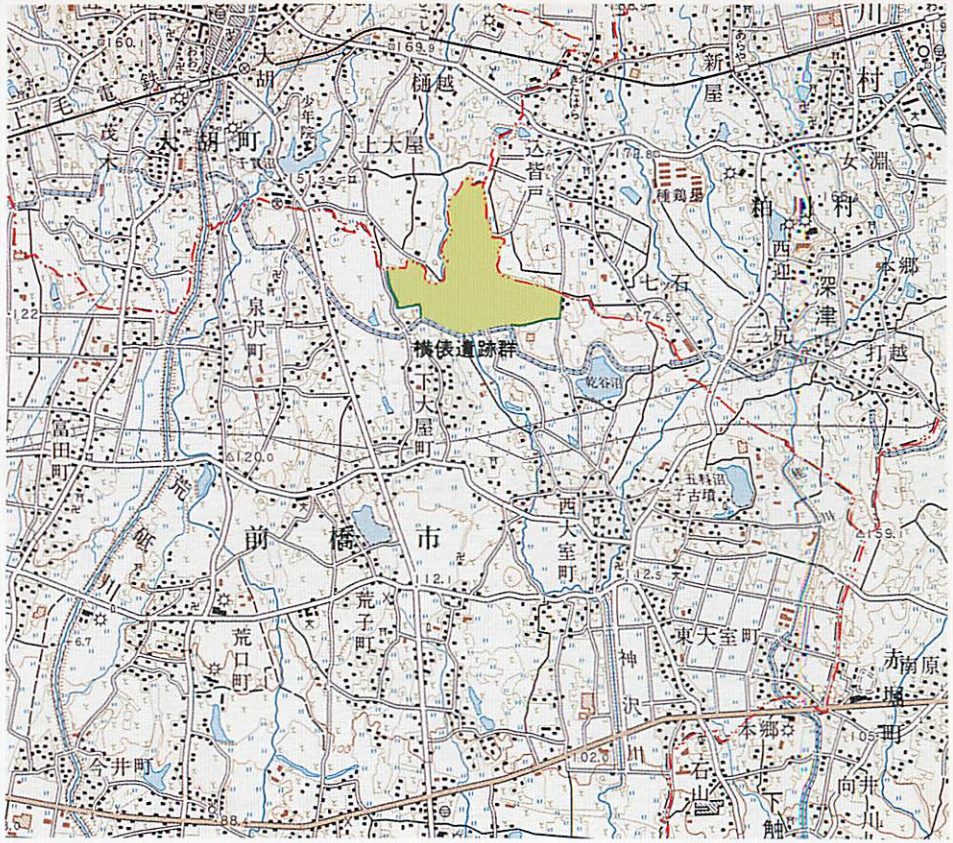
横俵遺跡群

1989

前橋市教育委員会

横俵遺跡群の位置





前橋市の地形は、大きく三つに分けることができます。市の東部の城南地区から北部の芳賀地区にかけて広がる赤城火山斜面・田口町から市の中央部を通り、駒形町まで続く昔の利根川の流路である広瀬川低地帯・市の西部の総社・東地区から利根川をはさんで上川・下川地区にかけて広がる前橋台地の三つです。

横俵(よこだわら)遺跡群は、たくさんの遺跡が残されている赤城火山斜面にあります。

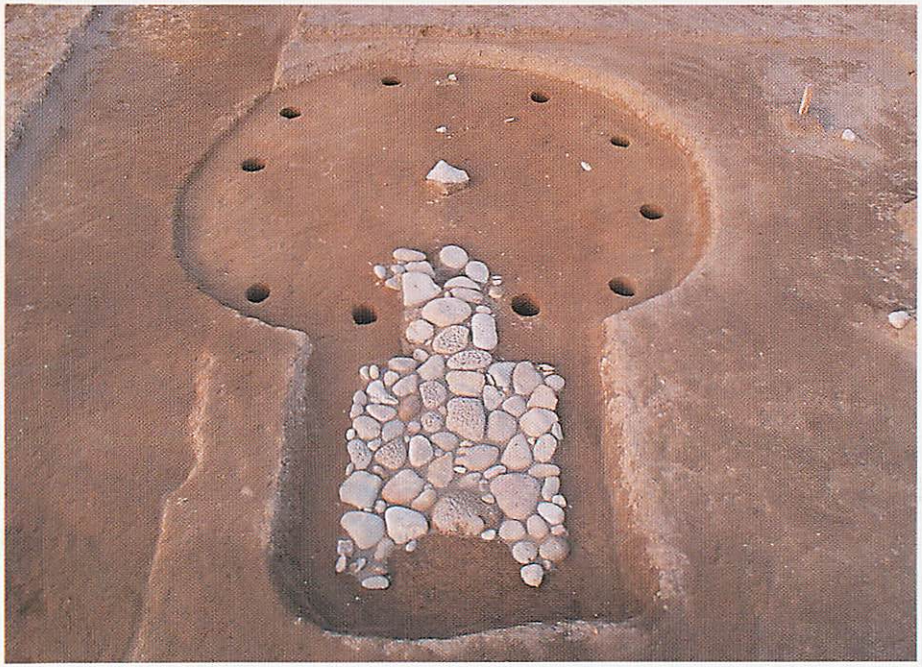
横俵遺跡群は、前橋市東部の泉沢町・下大屋町・西大室町にまたがってあり、北は勢多郡大胡町・東は同じく粕川村に接しています。

遺跡のすぐ南には、大正用水が東へ流れており、八光沼・横俵沼・乾谷沼(いぬいぜやつ)などの農業用の溜池も見られます。

横俵遺跡群がある城南地区は、古代の遺跡の宝庫とされている地区で、土地改良に伴う発掘調査などで旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代及び中世・近世に至るまで多くの遺跡が調査されています。

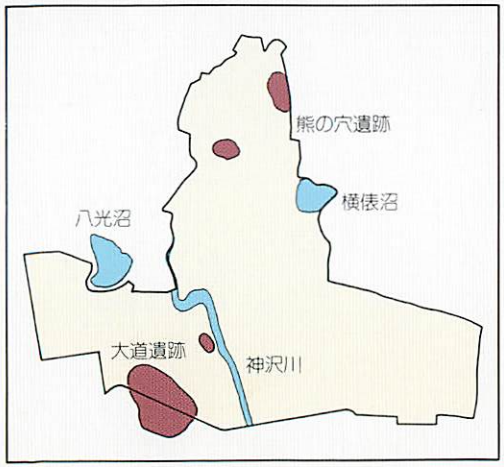
横俵遺跡群の調査は、荒砥工業団地の造成に先立ち、昭和６３年１２月からの試掘調査から始められ、全体の面積が約５３０００㎡のとても広い地域での発掘調査となりました。調査は大道・横俵・大久保・熊の穴の４地区に分けて行なわれており、この写真集は調査第一年次に実施された大道遺跡並びに団地内を通る市道５５６号線の新設に伴う熊の穴遺跡での調査記録をまとめたものです。

縄文時代の調査



1

2



大道遺跡や熊の穴遺跡では、今から何千年も前の縄文時代の住居跡やお墓の跡がたくさん見つかりました。

上の写真は、柄鏡形の住居跡で、家の中に石が敷かれているところから敷石住居といわれているものです。

円形の住まいの部分には、１０個の柱の穴がありました。また、中央部には、炉（いろり）の跡もありました。

右の写真の中央部には、村の人達のお墓の跡と思われる石で囲まれた穴がたくさん写っています。

3

4

5

6

左の写真の土器は、いずれも縄文時代の土器です。1，2，3，は深鉢と呼ばれるもので食料の貯蔵や煮炊きに使われていたものと思われます。3の土器は、残念ながら上半分がありませんでしたが縄文土器の特徴である縄目の文様がよく出ているのがわかります。4，5は、注口土器と呼ばれるもので、今のやかんやどびんに良く似ているものです。きっと何かおいしい飲み物でも入れて飲んでいたのでしょう。6は、浅鉢と呼ばれるもので、直経が40cmほどもあり、口の周りにはかざりのためのものか、たくさんの小さい穴が開られていました。

岩偶

土偶

土偶

土器につけられた人面

石棒

ミニチュア石棒（約5cm）

耳飾り

耳飾りの出土

左の写真は、お墓と思われる部分とその周りから発見された特殊な土・石製品を集めたものです。岩偶や土偶・石棒・土版などは、お祭りやまじないのときに使われたものと思われます。岩偶や土偶は、女性をかたどったもので、女性は子供を産むということから豊かな実りを願って造られたのかもしれません。ただ、全身がそっくりそのまま見つかることはまれで、ほとんどが壊された状態で発見されます。また、アクセサリーとして使用したのでしょうか耳飾りも何点か見つかっています。

土偶（胴）

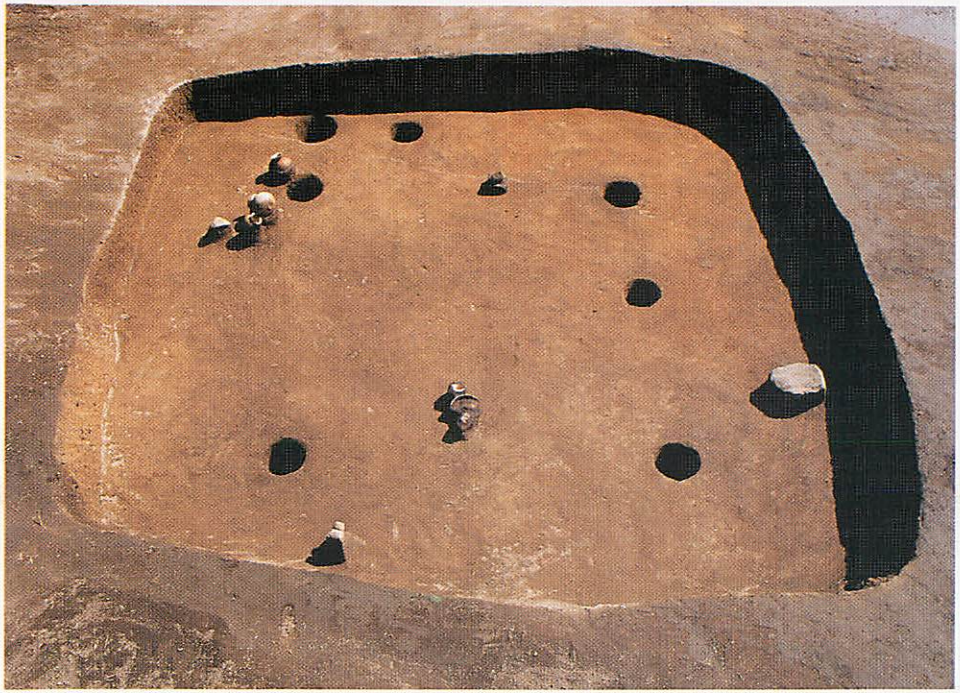
土偶（胴）

土偶（胴）

土偶（足）

土版の出土状態

古墳時代の調査（前期）



◀ 焼失住居

この住居は、どうやら火災にあったらしく、焼けこげて炭のようになった建築材が床一面に散らばっていました。炉で煮炊きをしていたために燃えやすい材料で造ってある家は火災にあいやすかったのかもしれません。

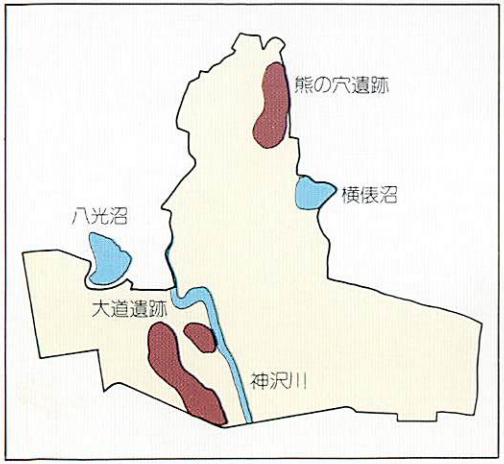
（熊の穴遺跡）

◀ 土器の出土状況

左の写真は、住居跡から掘り出された土器を写したものです。

そっくりそのままに横になって見つかったのが、カメの底に台が付いている台付きガメと呼ばれるもので、その隣にも同じような小型のカメがありました。

（大道遺跡）

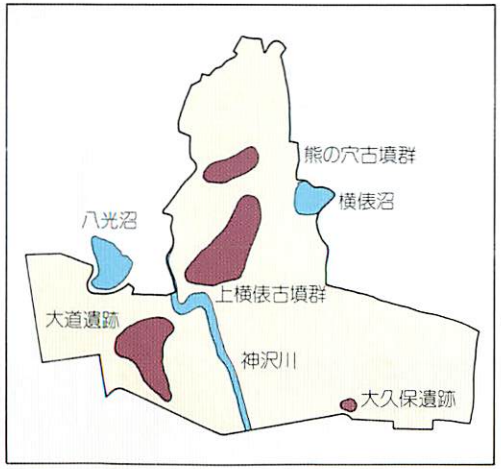


上の写真は、今から約１６００年くらい前の古墳時代前期に生活していた人の住居跡です。一辺が約5～6ｍの大きさで、ほぼ正方形の形をしています。家の中からは、五個の柱穴が見つかりました。また、当時使っていたと思われる土器もたくさん発見されました。この時代の人たちは、まだカマドというものを知らないので、縄文時代と同じく炉（いろり）で煮炊きをしていました。大道遺跡ではおよそ４０軒、熊の穴遺跡では１０軒ほどこの時期の住居跡が調査されました。

◀ 発見された土器

この時代になると縄文時代にさかんに付けられていた文様は、ほとんど無くなり、土器の厚みも薄くなります。このような縄文土器とはやや異なる飾り気の少ない実用的な土器が古墳時代には使われるようになります。上の三つはカメで、下の左にあるのは、米をふかすために使われたコシキと呼ばれる土器です。　（熊の穴遺跡）

古墳時代の調査（後期）



古墳時代の後期になると煮炊きは炉に代わりカマドで行なわれるようになります。カマドは、粘土で造られており、上に穴が開けられていて、土器がスッポリ入るようになっています。

上の写真の正面に見えるのがカマドで、発見されたときには、上の部分はくずれていてありませんでした。

カマドの右手と家の隅からは貯蔵穴が見つかりました。また、５個の柱穴もありました。大道遺跡では、およそ５０ほどのこの時代の住居調査が行なわれました。

◀ 住居跡の調査

住居跡の調査は、まずいらない土を機械で取り去り、そのあとは手作業で進められます。何百年もの間に家の中に積もった土を慎重に掘ってゆきます。途中で土器が出るとそれを残してまた掘ってゆきます。

遠くの方には、まだ調査されていない住居が黒いしみのようになって見えています。

（大道遺跡）

◀ 住居跡からの土器の出土

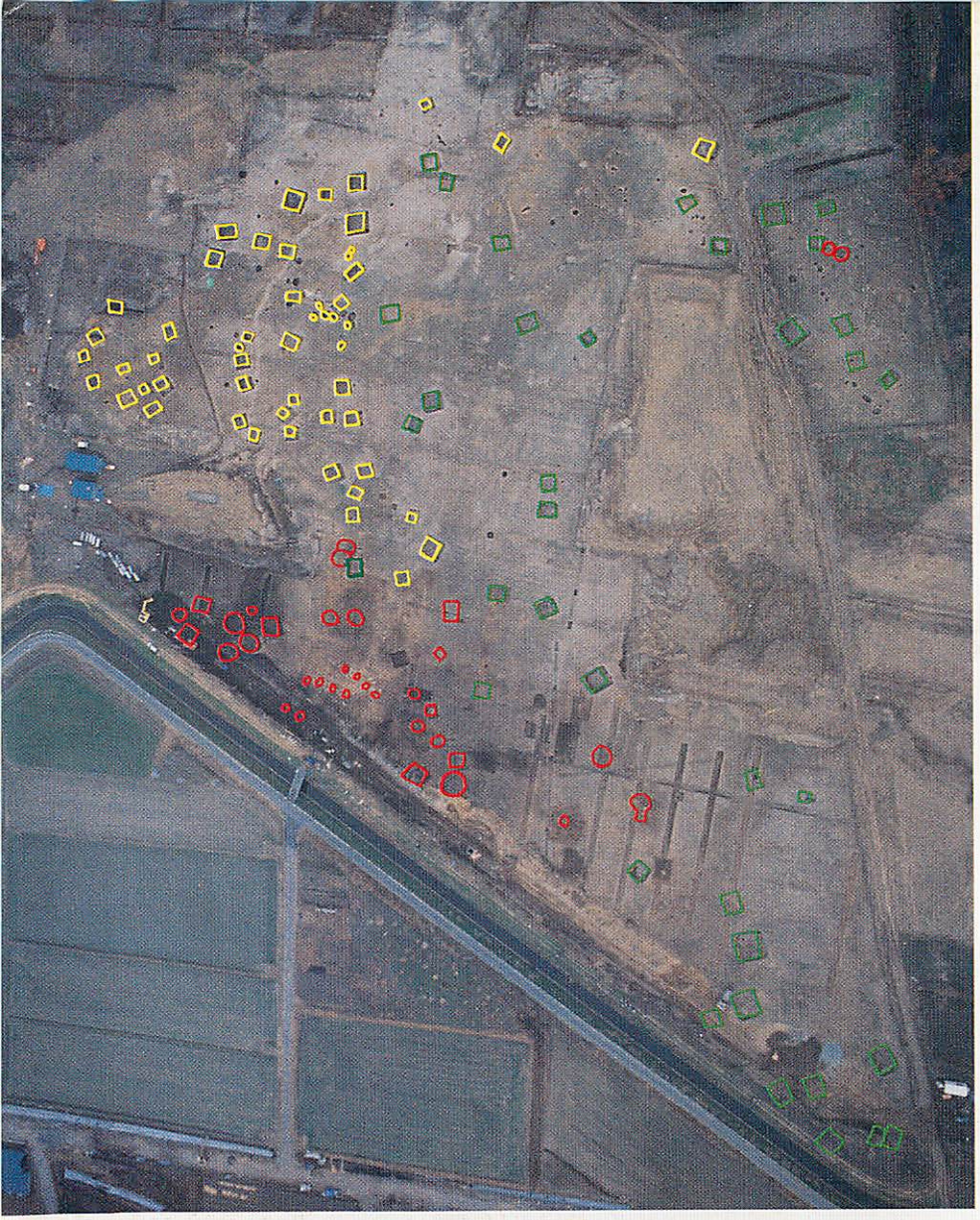
みなさんの家の台所に食器がたくさんあるのと同様に住居のカマドの中や近くからは、たくさんの土器が見つかります。この写真からは、カマドがつぶれたときに落ちた土器や貯蔵穴に転がり落ちた土器などが分かります。また、貯蔵穴の大きさや深さもわかります。

（大道遺跡）

◀ 熊の穴遺跡M-１号古墳

すでに天井石は取り去られていてありませんでしたが、石室は良く残されていました。遺骸や副葬品はほとんどありませんでした。

直経約２５ｍほどの小円墳で北から西、南にかけて掘がめぐらされていました。上横俵遺跡と態の穴遺跡には、たくさんの古墳があったことが知られています。



□ 縄文時代 □ 古墳時代前期 □ 古墳時代後期 （大道遺跡）

時代区分		年代	火山灰編年	主な生産活動	主な動物	前橋の遺跡	主なできごと
旧石器時代			箱根カルデラ噴火（ＡＴ層） 浅間山噴火（Ｙ．Ｐ層）	狩猟・漁撈・植物採集	石器・骨角器	柳久保遺跡 北三木堂遺跡 頭無遺跡	狩猟・採集の生活。 寒冷な気候。
縄文時代	草創期	BC.10000			縄文土器		土器の使用がはじまる。
	早期					端気遺跡群II 内堀遺跡群 下鶴谷遺跡 頭無遺跡	
	前期	BC.4000					温暖な気候（海進）。 村ができはじめる。
	中期	BC.3000	浅間山噴火（Ｄ軽石）	原始農耕？		芳賀西部団地遺跡	大規模な村がつくられる。
	後期					芳賀北部団地遺跡 横俵遺跡群 芳賀東部団地遺跡 芳賀北曲輪遺跡 横俵遺跡群	土掘具が多量につくられる。 敷石住居がつくられる。
	晩期	BC.200				内堀遺跡群 西新井遺跡	土偶、土版などが盛んにつくられる。 大陸から米づくりがつたわる
弥生時代	前期			水稲農業	弥生土器		
	中期						
	後期	300	浅間山噴火（Ｃ軽石）			上縄引遺跡 内堀遺跡群 前橋天神山古墳 鶴谷遺跡 柳久保遺跡 横俵遺跡群 梅の木遺跡 横俵（大道遺跡） 宝塔山古墳 山王廃寺 芳賀東部団地遺跡 中鶴谷遺跡 柳久保水田址 女堀 富田遺跡群 前橋城車橋門遺跡	邪馬台国女王卑弥呼。 各地域で古墳がつくられる。
古墳時代	前期	400			土師器		
	中期	500	榛名二ッ岳噴火（ＦＡ火山灰） 榛名二ッ岳噴火（ＦＰ軽石）		須恵器		
	後期	700					古代統一国家が誕生。
奈良時代		800					上野国府、国分寺がつくられる。 平安京に遷都。
平安時代		1200	浅間山噴火（Ｂ軽石）		陶磁器		
中世		1600	浅間山噴火（Ａ軽石）				江戸幕府の成立。
近世							明治維新。
近・現代							太平洋戦争。

横俵遺跡群　1989

前橋市教育委員会

1989.12.25